

## ～フットパス in 宮若市福丸地区～

### フットパス 3C 班

3組 22番 大村 春奈  
24番 岡本茉奈実  
32番 竹内 理緒  
36番 戸田 菜穂  
39番 山邊 瑞依

### 1. 背景

宮若市は面積 139.99 km<sup>2</sup>、総人口 28,104 人、世帯数 10,713 世帯の市で、トヨタ自動車九州や自動車関連企業の工場が数多く立地している。そのため、2014 年(平成 26 年度)の財政力指数(地方公共団体の財政力を示す指数)は 0.56 と筑豊地区の自治体では最も高くなっている。しかし、宮若市の人口は 1980 年以降一貫して減少している。さらに人口は今後も減少を続け、2040 年には約 7000 人減少し 2060 年には総人口は約 1 万 8000 人になるとの推計がある。また、高齢化も進んでおり年少人口及び生産年齢人口も 1980 年以降一貫して減少している。こうしたことの原因は進学・就職に伴う学生(10～24 歳)の転出がみられることや、公共交通機関、買い物環境、子育て・教育環境の悪さから、転出を考えている人がいる、などのことがあげられる。2040 年には宮若市の総人口の約 35%以上が高齢者になるといわれている。このような人口の減少や転出、高齢化などの様々な問題を解決するために若者が地元就職でき、いろいろな働き方ができる雇用の創出や、子育て世代に対する子育て・教育支援、持続可能な地域社会の実現に向けてバス等の利便性向上のための高齢者人材の活用、市内の地域資源を活かした観光復興など様々なことが求められる。宮若市の人口減少克服に向けた課題としては、子育て・ファミリー世代を中心とした転入の促進、進学・就職時における転出の抑制、出生数の確保による自然減少の抑制などがある。なのでこれから宮若市は、移住・定住のきっかけとなる交流人口を拡大すること、町の活力の源となる就労基盤を整えること、良好な都市環境を整え、定住することの魅力を高めること、市民が安心して産み育てられる社会を実現することなどをしていく必要がある。今回私たちがフットパスコースを設定した福丸地区でも同じ問題や課題があり、市と同じような対策を行っていくことが求められる。

### 2. 現状

現在の福丸地区は宮若市の中心に位置しているため宗像地方南部の拠点となっている。かつては旧宮若市役場(現・宮若市役所支所)が置かれ、旧宮若市の行政上の中心でもあった。また自動車駅として福丸駅が置かれ、福岡市、福津市、直方市などに JR バスが走る交通の要所でもある。宮若市には文化財も多くあり、国指定文化財が 1 個、県指定文化財

が7個、市指定文化財が14個、合計22個の文化財が市内にある。しかしこれらの地域資源はあまり知られていないため観光客などはほとんどいない。また現代における地域の活性化には欠かせないものとなったTwitterやインスタグラムなどのSNSに若者がアップするような写真撮影のスポットや観光名所がほとんど存在していない。そのような要素もあり、外部から人を呼び込めず人口は減少し続けている。このように福丸地区は多くの問題を抱えており、そのほとんどが未解決の状態が続いていて、問題の改善もあまり進められていない。これから様々な問題と向き合い対策をしていかなければならない。

### 3. 提案

目標は「誰でも楽しめるフットパス」であり、私たちが考えたフットパスコースの魅力は様々な風景を楽しむことができるという点にある。町中の道ではバス停などの公共施設やいたるところの道路に宮若市のマスコットキャラクターである「追い出し猫」を見ることができる。また、大きい道を外れるとたくさんの田んぼや犬鳴川などの豊かな自然があり、のどかでしずかな風景を楽しむことができる。その町や自然の中に神社やお寺などがあり、地域の歴史を感じられる。このようにこのコースは宮若市福丸地区の自然と文化のどちらにも触れることができるコースとなっている。

町をゆっくり歩くことで今普通に毎日を過ごして当たり前のように見ている何気ない風景の美しさに気付いてもらったり、今まで知らなかった地域の歴史について改めて知ってもらったり、新しい発見をしてもらえればと私たちは考えている。そうすることによって、福丸地区に長年住んでいる方々にもっと街の魅力や歴史を若い世代の人に伝えたり、地域で協力して外に発信したりするなどの取り組みをすれば福丸地区のさらなる発展につながる。さらにそれが将来的に背景で述べた人口減少や少子高齢化、人口の流出などの様々な問題の解決や産業を発達させることにつながっていくと思う。

### 4. 詳細

私たちが考えたコースは、福丸駅(スタート)→円福寺と古い町並み→追い出し猫横丁→田んぼ道→天満神社と並木道→筑前金丸駅(ゴール)の順に巡っていくコースである。

まずスタートの福丸駅には一匹の大ねずみと数百匹の猫たちに関する民話をもとにして作られた宮若市のマスコットキャラクターである「追い出し猫」をモチーフにしてデザインされたバスの待合室を兼ねた福丸交流スペースが建っている。道路を挟んで向かいには若宮コミュニティーセンターがあり、その敷地内に建てられている大きな追い出し猫の像を見ることができる。



次の円福寺は清覚という中国の北宋末期の僧が建てたお寺で『筑前國続風土記拾遺』巻之 31 鞍手郡下福丸村の項に「村中に在。西照山と号す。禪宗洞家金生村瑞石寺の末院也。開墓の僧を清覚と云。」という記載がある。円福寺の門前はかなり古い町並みが残っておりとても雰囲気がある。境内には多数の石仏や、文化6年(1809年)銘の弘法大師像が安置されている大師堂などがある。その他にも円福寺ゆかりの高僧の墓碑と思われるものや、不動明王像などもある。



次に追い出し猫横丁。追い出し猫横丁はとても雰囲気のある昔ながらの商店街である。商店街のいたるところにその名の通りたくさんのお猫が見られる。お店は米粉でできたパンを売るパン屋や若宮味噌と若宮の醤油のお店などがある。また、「追い出し猫本舗」というお店では追い出し猫の由来や歴史を紙芝居で学んだあと、有料で絵付け体験をすることができる。お手本通りに描いても自由に自分の好きなように描いても OK なので世界に一つだけの自分だけのオリジナルの追い出し猫を作ることができる。体験では、色ペンを使うので小さなお子さんでも気軽に体験できる。10名以下であれば予約を事前に行っていなくてもすぐに体験できる。他にもこの追い出し猫本舗にはお菓子や雑貨などもあるので見るだけでも楽しい場所となっている。



次は田んぼ道。追い出し猫横丁を出て大通りを歩いていくと銀行や雑貨屋さん、洋菓子店など様々なお店があり、そのいずれにも追い出し猫が飾られている。それらを通り過ぎると大きな犬鳴川がある。この犬鳴川の堤防を降りると大きないくつもの田んぼに沿って続くとても長い田んぼ道が表れる。この道は車や人通りの多い道から外れているので今まで歩いてきた場所とうって変わってとても静かでのどかな風景が広がっており、自然を楽しみながら歩くことができる。秋には運が良ければアオサギに出会えるかもしれない。



田んぼ道を抜けると細い小道に続き静かな住宅街に入る。その中にも小さな川が流れていてその上に小さな橋が架かっていたり、ぽつぽつと田んぼがあったり、お寺や地域住民の方が育てている野菜などがあると思われるビニールハウスがあったりと小さい道ながらもそこに住んでいる人たちの生活をうかがうことができる歩くだけで楽しい景色がある。



最後に天満神社と並木道。先ほどのような道を進んで

いくと家と家の間の細い道に不意に高いところに続く階段が表れる。その階段をのぼると、周りを木で覆われたとても広い開けた土地がある。そこの奥に進んでいくと、大きな鳥居や休憩スペースのような備え付けのベンチがある建物、その奥にお賽銭箱、そして神殿がある。ここもとても静かな場所で、建造物が集中している場所は特に木が生い茂っているため少し薄暗くなっている。さらに鳥居や神殿が古くなっていることもあり、まるで廃墟のようなとても落ち着いていて少し怖い気もするような不思議な雰囲気がある神社である。天気によってはちょっとしたホラーな雰囲気も味わうことができる。天満神社はかの有名な菅原道真を祭っていることから、主に学問にご利益がある神社だと思われる。

鳥居の前を通り過ぎ、道に従って歩くとなぜそこにあるのかよくわからない大きな石がある。さらにそこを通り過ぎるとバス通りにつながる少し坂になった並木道がある。この並木道は短いながらも両端にはきれいに等間隔で木が植えられており、とても美しい魅力的な場所となっている。そして並木道を抜けるとこのフットパスコースのゴールである筑前金丸駅に到着する。

## 5. 未解決問題

フットパスを行うことにより地域の歴史や魅力を多くの人に伝え、広めていくことで背景や現状で述べたような人口減少や少子高齢化の問題は徐々に解決することができるだろうと考える。しかしフットパスを行っても解決が難しいと思われるのは人口の流出だ。市外への転出を考えている多くの人が子育て・教育環境の悪さ、公共交通機関の不便さ、買い物環境の悪さを転出の理由に挙げている。いくらフットパスを行い外部から人を呼び込んだり産業を発達させてもそこからどうしていくかを市や地域が考えていかなければせっかく宮若市に興味を持って来てくれた人を定住に結び付けることはできない。それだけでなく元からある人口をさらに減らしてしまう可能性もある。なのでこれからは呼び込んだ人をどのようにして定住に結び付け人口の増加を図るか、または人口の流出を防ぐか、そしてそのために必要な公共交通機関や商業施設、教育機関を発達させていくことが求められる。そのための具体例としては、マンション・アパートの建築や一軒家を建てるための土地の整備などを行い居住地区の増加を図ることや、新たに店を開こうとしている企業や個人に対して通常よりも安い価格で土地を提供するなどといった仕組みを作り町の商業を発達させること、市営のバスの本数を増やすこと、イベントなどを頻繁に行い住民を飽きさせず、かつ観光客や新たな移住者を呼び込めるような魅力ある町づくりを行っていくことなどが挙げられる。

## 6. 一年間の班の実施スケジュール

5月…コース決定

9月…班のメンバーでコースの下見

10月…九州大学堀井先生講義

11月…フィールドワークデイ(in 植木地区)、フットパス全国大会(in 中間)

12月…レポート・企画書提出

その他1年を通してパワーポイント、コースマップの作成など

## 7. 役割

レポート作成…岡本・竹内

パワーポイント作成…戸田・山邊・大村

コースマップ作成…山邊

企画書作成…戸田

## 8. 参考文献

背景で述べた数値データは宮若市ホームページ(平成27年国勢調査など)より引用。